
社会福祉法人あむ
平成28年度
事業報告書・決算報告書

自 平成28年 4月 1日
至 平成29年 3月31日

社会福祉法人あむ
理事長 松川 敏道

全体を通して

平成 28 年度は共同生活援助事業〈こまち〉において、新たに同じマンション内の賃貸物件を改修し、「はびねす」と名づけ、7 室居室を増やすことができた。

また障がい福祉サービス各事業を継続して展開し、ワンマイルネット事業の活動、イベント等を通して、地域とのつながりを強化・発展させてきた。

1. 社会福祉法人あむ5 か年計画

平成 27 年度に作成した法人の中・長期的計画である社会福祉法人あむ5 か年計画の初年度としてそれぞれの計画を押し進めてきた。

①第2サポートセンター構想

第 2 サポートセンタープロジェクトを中心として、具体的なセンターの機能等考えつつ、物件の取得に向けて、土地、建物探しを行った。サポートセンター近隣に土地を見つけ購入の検討を進めたが、条件が合わず断念した。現状では条件に見合う物件が見つかっておらず、中央区は市内でも人気が高いエリアで、不動産価格が高騰していることから、土地を確保し新築することが当初の見込み以上に困難であることが見えてきた。

②重度重複障がい児者への支援

新たな事業や、新たな利用者を受け入れるまでには至っていないが、肢体不自由児者等の支援を行っている法人等へスタッフを派遣して研修を行ってきた。また医療法人稲生会の土畠理事長による研修をスタッフ合宿において開催し、またお互いの事業所を見学するなど稲生会との人材交流を進めることができた。

③公益的事業・ワンマイルネット事業

社会福祉法改正に伴い、社会福祉法人が「地域における公益的な取組」を行うことが義務となった。このため、なんきゅう夏祭りや子育て支援などワンマイルネット事業を公益的な取組として行うことについてのメリットデメリットや、進め方などの検討を進めた。

2. 給与体系、キャリアパスの作成

昨年度より職員の資質等を考えた給与体系を作成し、給与規程の変更を行った。また給与体系にリンクした、スタッフのキャリア形成を明確にした社会福祉法人あむらしいキャリアパスを作成した。

3. ワークライフバランスの実現

子育てをしながらの短時間正職員、グループホームの宿直スタッフなど、変則的な勤務形態が増え、スタッフの働き方が多様化してきている。

子育て中のスタッフによる月 1 回の情報共有、子育て相談の場として、「ママランチミーティング」を行った。話し合いの中から生まれたアイデアをチーフ会議に提案し、子育てしながら働きやすい職場環境、勤務形態を継続的に検討した。

4.人材育成～〈あむ〉の土台であるスタッフ個々人の実践力と総合力の向上を

働き方の多様化に加え、新規職員の経験等も多様化してきている。また、様々な役割の世代交代を進める必要性も増してきている。

スタッフ個々人の多面的で深い利用者理解、グループやチームにおけるマネジメント力、それらを含めた総合的な実践力が身につけられるよう、従来から行ってきた事例検討を含む部署ごとや法人全体の研修の実施、外部研修等への派遣を継続的に行った。また平成28年度は実践発表会を2回に分けて行い、全事業所の実践を発表した。

5.災害対策～大規模災害に備えて

災害発生時の緊急対応や非常持ち出し品の準備などを進めるため、新たに災害支援検討チーム〈なんきゅうとなり組〉を組織した。利用者や家族、地域の方々、スタッフやその家族を含めより安全に生活できるよう、法人として地域に対しどんな役割、機能を持つことができるかを検討してきた。

生活介護事業 びーと

1.支援、計画の考え方

日中活動のみではなく生活全体から描く「夢・希望」を大切に、本人が取り組む事や支援を検討した。「わたしの計画（個別支援計画）」にも夢や希望が見えるよう書式を工夫してやりとりする事を心掛け、数名の利用者から「やってみたい」という意志を聴き取る事ができた。「立てた計画が実行される事で生活が変わる」事をメンバー自身が感じる場面があり「計画の大切さ」「計画の面白さ」をお互いに実感し始めている。

「生活全体」から「日中活動で取り組む事」へブレイクダウンし、本人を含む全員が取り組む事が明確になるよう今後も努めていきたい。

2.日中活動

「できる事」「やりたい事」「やってみたい気持ち」を大切に活動展開した。やってみたい事を出し合い形にする事を目的とした「なんでもたいむ」を新たに設け、今年度は計算や文字の練習を実施した。バザー等の店番でお金のやりとりをする場面や、日々のコミュニケーションツールに手紙を使用する等、「なんでもたいむ」で取り組んだ事が日々の生活に活かされる姿が見られた。

仕事の面ではポスティング仲介業者「リッド」と新たに契約し、ポスティング業務の充実を図った。これにより、普段〈びーと〉の中で仕事に取り組むメンバーの外勤の機会を設ける事ができた。

一方で、奥芝商店の野菜切り（店舗移転）や地下鉄仮眠室寝具交換（意見不一致）等、事情により休止をした業務もあった。メンバーの作業充実を図るため、今後も新たな業務の検討を続ける。

3.生活介護ネットワーク会議の設立

中央区で活動展開する生活介護事業所が集い「情報交換」「課題の検討」等を行う〈生活介護ネットワーク会議〉を設立した。平成29年3月現在で6事業所（TAK、リトルローズ、つくし、おはぎ、ピリカ、びーと）が集い、各事業所が抱える課題の共有や福祉制度の動向に関する意見交換等を行った。今後も中央区の生活介護に呼びかけ、生活介護の利用しやすさの向上や連携に努めていく。

4.スタッフのスキルアップ

今年度は「発達障がい者の理解」を深めるために（有）colorsに協力を依頼し2事業所合同で研修会を実施した。発達障がいの行動特性、行動特性シートから見える障がい特性と支援の方法、共通利用者の事例検討等を連続研修し、発達障がい者支援の理解を深めた。

また、通所を休みにして〈社会福祉法人 北海道社会福祉事業団〉の見学をスタッフ全員で行った。措置制度から現在に至るまでの経過や想いを知り、今後の事業展開に係わる気付きや学びを深める事ができた。またスタッフ同士の交流も深める事ができ、充実した時間になった。

5.びーす環境の整備

利用者が集中して作業に取り組める、又は作業できる人数を拡大できるように「びーす環境の整備」を検討。毎月の「びーす会議」で検討を進め、今後のイメージ（案）の作成を始めた。（広さ、間取り、場所、作業イメージなど）次年度はイメージ（案）を完成し全体で共有、具体的な動きに変えていきたい。

6.事故防止

利用者の不調により起こった骨折事故、スタッフの体調不良により起こった転倒事故があった。どちらの事故も長期治療が必要だったため回復に時間が掛かった。その他、車両事故や財布の紛失等の事故も少なく無かった事から、次年度は利用者アセスメントを慎重に行い、日々の生活や外出時の確認を徹底する。同時にスタッフの体調管理も行い、事故の無いよう心掛ける。

児童発達支援事業・放課後等デイサービス事業 に・こ・ば

児童発達支援事業 に・こ・ば2

1.目的・運営・保護者支援の充実

- ・運営や目的については、職員一人一人が意識し質の高い療育を考え取り組んでくれていることから、苦情や大きな事故に結び付くことなく、事業運営することができた。
- ・保護者から、活動内容について期待は高く、スタッフの質の向上に努めなければならないが、職員個々の向上心が高く活動や保護者支援への取り組み等継続した会議設定や発信する力をつけながら、質の向上に努めてきた。

- ・保護者からの困り感については、連絡ノートで保護者から発信されることに、即座に対応してきた（電話での相談対応・活動の様子を伝える・発信・障がい特性について等）なるべく具体的に、時には目で見てわかる工夫を加えながら伝えてきた。ただ、すぐに答えが出るものは少ない為、継続して相談を受けながら、子どもの育ちに寄り添い、母親の困り感には、それぞれの保護者への対応の仕方等話し合いながら、寄り添うことができてきた。
- ・個別懇談は、年2回の個別支援計画評価時に、子どもの成長を一緒に確認しながら話せた。また、個別支援計画に保護者の意向や要望の欄を設けたことで、保護者の困り感や子どもへの困り感等書かれていて、一緒に考えられる良いツールができた。

2.札幌市障がい児等療育支援事業

- ・相談室からの紹介や利用児の保護者からの紹介で、子どもとのかかわりづらさや不登校についての相談などをしながら、本人支援や保護者支援を行ってきた。実績は年6件。

3.職員育成・研修

- ・スキルアップに繋がるための経験・研修受講に努めてきたものの、人員配慮・時間配慮が難しく十分な研修参加とまではいかなかった。しかし研修の内容を、報告する場を設けたり、活動の中に取り入れるためにはどうするかなどスタッフ間で話し合うなど、研修参加からのアイデアを現場へどう活用するか等検討し現場での活用へつなげている。
- ・おがるの機関支援をうけ、事例検討や障害特性について等学ぶ機会を随時持ち、日ごろのケースの見直しを図ることができている。これからも継続していきたい。

4.連携支援のありかた

- ・幼稚園や保育園・学校・セラピーとの連携については、保護者を通してやりとりをしながら、個別支援計画に基づいた支援のあり方などを話す機会に恵まれ、継続して行くことが出来ている。ネットワークを大切にしながら、連携を継続していきたい。また、セラピーでの内容を持ち帰り、個別のセラピー内容を集団の活動で利用できるよう、創意工夫しながら取り組んでいる。スタッフの意識が変わってきた。

5.全体を通して

- ・全体を通して、今年度は保護者の協力のもと、事故・けがもなく療育や活動ができた。幼児（AM）は例年になく、母子通所の希望が多く、療育内容等難しかった。また、保護者支援の難しさも毎年課題になるが、職員の経験を積み重ねていながら、寄り添う支援ができるようになればと考える。
- ・スタッフ間の連携のあり方には課題が残り、創意工夫が必要であることから、次年度の課題としたい。
- ・ブログに目を通されている保護者が多く、ブログに写真を載せることにより、「療育内容の様子が分かりやすい」「もっとどんなことをしているのか見たい」等保護者からの期待度も大きいですが、スタッフの余裕がなくなかなかブログアップすることができないのが現状である。

- ・療育内容や個別の取り組みなど課題は多いが、スタッフそれぞれ向上心を持って取り組んでいるので、次年度につなげていきたい。

にこば(発達支援事業・放課後デイ)・にこば2 月別延べ人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
にこば 発達	22	23	32	27	32	26	31	27	35	39	52	57	34
にこば 放課後	108	109	124	127	107	97	103	104	94	92	103	93	105
にこば2	106	105	146	134	139	137	162	151	152	162	153	162	130

にこば 児童発達支援事業（AM 幼児 定員 5 名）1 日平均：2.4 名

にこば 放課後デイサービス（PM 小学生 定員 5 名）1 日平均：4.7 名

にこば2 児童発達支援事業（PM 幼稚園・保育園児 定員 10 名）1 日平均：7 名

居宅介護等事業 ばでい

1.チーム・組織力の強化

平成28年度は定例スタッフミーティングの他、ランチタイムやおやつタイムで情報共有や担当業務毎のスタッフ連携強化のための時間を作った。またスタッフ交流を目的に、お互いのことについて気軽に話しをするミーティングの時間を設けた。

2.利用者のニーズ・利用者像の把握

サービス中の本人の様子や関わりから、利用者さんのことを知ることも多いので、話しをする機会を作るようにした。特にパートや兼務職員、また新規の利用者に関しては全員で共有する時間を設定した。

3.研修の参加

サービス提供に必要な喀痰吸引研修や行動援護従事者研修、福祉有償運送などの研修を優先的に受講している。可能な限り複数名で参加しているが、報告は簡単に行っていたため、次年度は、報告の方法について検討していく。また札幌市の行動援護サービス利用者数と平成30年度の行動援護従業者の資格講習必須化に伴う課題を共有し解決に向けて考えていくために、さっぽろ行動援護ネットワークに参加している。

4.業務の「見える化」（時間の有効活用）

日常事務としては年間で請求担当、サービス調整担当を決めて取り組んだ。ミスを減らすため、必要に応じてマニュアル化して、ミスについてはすぐに改善策を話す機会をつくり、結果ミスは減少傾向に

ある。各スタッフの現在進行形の担当業務や業務量の把握については、次年度も継続して改善を進めていく。

5.多様な働き方に対応できる体制作り、パートスタッフの雇用

他部署との兼務スタッフが1名入り、時間給パートスタッフを1名採用した。平成28年度はサービス同行と引継ぎを中心に勤務してもらい、次年度からサービスとサービスの間の時間の事務作業等について検討していく。

6.事務所

事務所レイアウトに関して、平成28年度は取り組めておらず、次年度への課題としている。

共同生活援助事業・空床型短期入所事業 こまち

1.事業規模の拡大

(1) 28年度当初の予定では男性入居者を4名増やし、全体で13室（内ショートステイ2室）にする予定でいた。しかしながらこまちのあるマンションで7名入居可能な部屋を借りることができた。これにより全体で18名（内ショートステイ4室）にすることができた。

また、各居室に鍵がかかるようになっており、入居者のプライベートを守れる環境になっている。その為、当初は男性のみの共同住居を考えていたが、男女それぞれの入居者を受け入れることが可能となった。

(2) 規模拡大に伴い、世話を1名増やし3名体制にする予定でいた。しかしながら元々いた世話人2名が体調不良となり勤務できない状況になってしまった。こまちの近隣に募集チラシを配り1名の世話人を雇い入れ、さらに体調不良だった1名が復帰できた。これにより現在は2名の体制に戻っている。今後は食事提供の負担軽減を考慮しつつ、状況を見て新たな世話人の確保も検討していく。

2.利用状況

グループホーム

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用日数	211	200	201	235	224	211	222	217	204	203	203	208

ショートステイ

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用日数	44	41	29	23	19	20	24	26	22	22	14	23

3.スタッフ体制

昨年度は常勤スタッフの情報共有のため、ほぼ毎日ミーティングを行ってきた。入居者の様子を確認し、連続した支援を行えるようにしてきた。反面、非常勤スタッフをまじえたミーティングは、日程調整が上手くいかずなかなか行えない現状が続いている。しっかりと情報の共有を行っていくため、今後はなんらかの仕組みを考え対応していく。

また、身体障がいを持つ利用者への対応のため、常勤スタッフ 2 名を他法人で実習をしている。こまちでは身体障がい者の利用が無く、支援技術を向上させる機会がない。そのため、今後利用があるであろう身体障がい者へのしっかりとした支援が行えるよう他法人で実習させてもらっている。今回は 5 日間という日程だったが、今後も行えるようにしていきたい。

単独型短期入所事業 ふらっぶ

1.全体を通して

今年度も利用者が自宅で過すのと変わらないような支援を目指し、単独型短期入所事業を行ってきた。利用者をご自宅でどのように過ごされているのか確認し、なるべく同じような流れで過ごせるようにスケジュールを立てている。

グループホーム〈こまち〉においても短期入所事業を行っているが、集団で過ごすことになり、また職員が他の入居者の支援の為、その場から離れることもある。その為マンツーマンに近い支援が求められる利用者には〈ふらっぶ〉の利用を薦めている。

スタッフは他の事業と兼務している為、各事業と勤務調整をし事業を行ってきている。そしてなるべく利用者がよく知るスタッフを担当させるように調整を行ってきた。

2.利用状況

今年度の〈ふらっぶ〉の年間利用者数は 16 人で年間利用日数は 32 日であった。月平均では利用者数は 1.3 人で、利用日数は 2.7 日だった。ここ最近の利用状況と大きくは変わらない状況である。また、こまちでの短期入所受け入れもあり、〈ふらっぶ〉での新規契約者は今年度はなかった。

相談室にっと

開設 2 年目を迎え、医療機関、障がい福祉サービス事業所、特別支援学校等との連携が広がり、サービス等利用計画作成の依頼件数は徐々に増えてきている。

また札幌市による指定特定・障がい児相談支援事業所ごとに計画相談新規対応可能件数の公表が始まったことから、区窓口、他区の相談支援事業所から新たな計画作成の依頼が来るようになっている。

1.サービス等利用計画作成・モニタリングの実績

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
障がい者	計画	2	2	0	0	2	1	1	1	0	2	1	2	14
	モニタリング	1	2	2	0	1	3	1	1	1	2	3	1	18
障がい児	計画	5	0	2	3	3	1	2	3	0	3	1	2	25
	モニタリング	1	7	5	5	2	7	5	5	3	4	3	4	51

2.ミーティング・研修

南9条通サポートセンターの一室で、週1回1時間～1時間半程度のミーティングを実施している。担当する利用者の情報と制度活用および相談の進捗状況の共有、支援策検討を中心とした学びあいの場として機能している。

また法人内の他の相談支援事業所（相談室ぽぽ、ワンオール）と共に情報共有、事例検討等のための場「多岐 co 実」に参加した他、相談支援事業所と中央区の勉強会、札幌市自立支援協議会相談支援部会の研修に参加した。

3.現状と課題

障がい児の利用支援計画作成において、保護者から計画作成依頼を受けた中に、相談支援専門員が訪問して初めて親の障がい受容ができていないことに気づかされたり、親自身も障がいがあり、子育てがうまくいかないという実態を目にすることが数件あった。市内では児童のサービス利用はまだセルフプランで申請されるケースが多いことから、これらの課題が表面化しない危険性を感じている。

また障がい者においてもサービス等利用計画の作成で相談が来たものの、指定相談支援事業所の役割、機能のみでは対応しきれない課題を抱えるケースがあり、区や委託相談支援事業所等と連携し対応していく必要が求められている。

地域ぬくもりサポート事業

地域ぬくもりサポート事業は、障がいのある人や発達に心配のある子の日常生活を地域全体でサポートしていくため、地域住民（地域サポーター）による有償のボランティア活動を推進する札幌市の事業である。

当法人が札幌市より運営委託を受け、地域ぬくもりサポートセンターとして、手助けを求める方と、誰かの役に立ちたいという想いを持った地域サポーターをつなぐ役割を担い、活動を展開している。

「地域に暮らす人同士、お互い対等な人間関係のもとで築かれる助け合いの輪を広げていきたい」というこの事業の趣旨は当法人のミッションである「出会いからつながりを編み、結び目を作る」と理念が合致しており、ミッションを体現する事業と言える。

月別支援件数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
63	53	37	37	30	29	27	22	37	42	59	45	481
				あむ以外	0	6	18	30	25	47	126	
				合計	27	28	55	72	84	92	607	

支援内容内訳

支援内容	あむ	あむ以外	合計
外出支援	227	40	267
育児支援	31	0	31
家事援助	121	17	138
見守り・話し相手	46	27	73
庭仕事・除雪	7	4	11
活動支援	26	32	58
コミュニケーション支援	21	1	22
その他	2	5	7
合計	481	126	607

サポートセンター担当区別支援実績

サポートセンター	担当区	件数
あむ	中央区	430
	南区	38
	豊平区	6
	清田区	7
HOP	西区	67
	北区	14
	手稲区	0
わーかーびい	東区	36
	白石区	6
	厚別区	3

地域サポーター年齢層・男女比

	男	女	合計
10代	1	4	5
20代	17	27	44
30代	17	22	39
40代	17	27	44
50代	6	19	25
60代	17	20	37
70代	11	12	23
80代	0	1	1
合計	86	132	218
平均年齢	45.6歳	45.5歳	45.5歳

利用者年齢層・男女比

	男	女	合計
10歳未満	28	9	37
10代	11	5	16
20代	4	1	5
30代	4	10	14
40代	4	13	17
50代	4	5	9
60代	6	12	18
70代	5	6	11
80代	1	4	5
90代	1	3	4
合計	68	68	136
平均年齢	27.9歳	47.4歳	37.7歳

地域サポーター職業別・男女比

	男	女	合計
会社員	30	18	48
アルバイト	4	16	20
主婦	0	47	47
学生	10	25	35
自営業	7	6	13
無職	35	20	55
合計	86	132	218

利用者障がい種別・男女比

	男	女	合計
知的	9	7	16
発達	33	10	43
精神	4	3	7
視覚	2	9	11
肢体	14	33	47
難病	1	0	1
重症心身	3	1	4
重複	2	5	7
合計	68	68	136

平成 28 年度は札幌駅前通地下広場（チ・カ・ホ）において、「ご近所さんの手助け募集中 in チ・カ・ホー私にもできるボランティアのかたち」と題して、札幌市社会福祉協議会の「ほっ・と支え愛事業」とともに、会場内に有償ボランティア登録受付を設置し、活動への参加呼びかけを行った他、イベント企画として障がい当事者による座談会や絵画展、音楽 LIVE などを実施した。一日で 600 名以上の参加者があり、サポーター登録も 17 名あり、イベントの効果を確認することができた。

支援件数は徐々に増えてきており、障がいのある人や子の事業所、学校からの送迎、一人暮らしの人の話し相手、下肢に障害のある人の家の除雪、視覚障がいのある人の外出同行、精神障がいのある人の部屋の片づけなど支援内容は多岐にわたっている。

1 対 1 の活動に不安や抵抗感があるサポーターに対しては、びーと、にこぱの日中活動にサポーターの参加受け入れも行っている。

地域の役に立ちたいという思いを持つサポーターの力を生かすことで、地域に住む障がいをもつ人、子の新たなニーズを発掘し、障がい者支援の知識や経験等を持たない人による支援、障がい福祉サービスの枠組みによらない支援の可能性を広げることができた。

課題としては中央区に比べ、他の区は地区間の距離が離れており、移動距離が長く、時間がかかるため、車で移動ができないサポーターの場合、活動できる範囲が地区内の徒歩圏に限られてしまう。

地区により利用者とサポーターの登録者数に偏りがあるため、市内全域から集まりやすい中央区に比べ、マッチングが難しく、利用者の依頼にすぐに応えにくいことあげられる。一人でも多くの利用者からの依頼に応えられるよう、地域サポーターを増やすため、引き続き事業の PR 活動に努めていきたい。

・PR 活動

ぬくもり通信第 2 号（11 月 25 日）、第 3 号（3 月 25 日）発行 500 部

活動を紹介する動画作成（制作 ここリカ・プロダクション）

市内コミュニティカフェにチラシ、ポスター配布

ご近所さんの手助け募集中 in チ・カ・ホ （2月25日）

いきいき福祉健康フェア 2016（10月14日～10月16日）出展

広報さっぽろ記事掲載 2月号

北海道新聞記事掲載 2月28日夕刊

区役所、まちづくりセンター等公共施設、地下鉄駅構内等ポスター掲示、チラシ配布

札幌市ホームページ、Yahoo! ボランティア 情報掲載

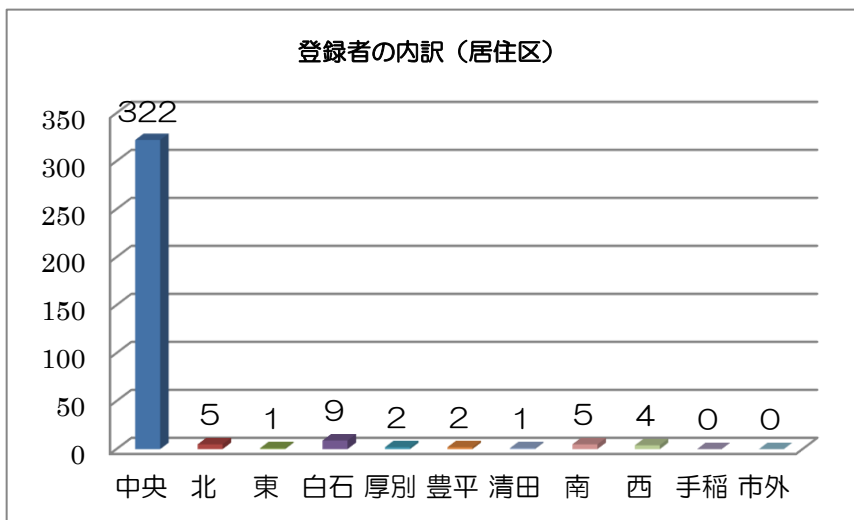
相談支援事業 相談室ぽぽ

1.年間利用実績

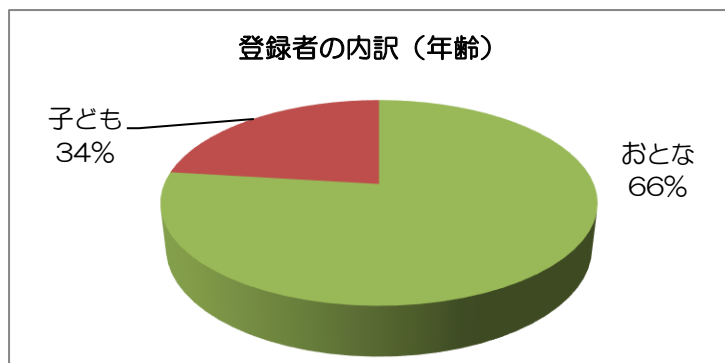
○平成29年3月末登録者数 351名

○平成28年度新規登録 102名（平成27年度：116名）

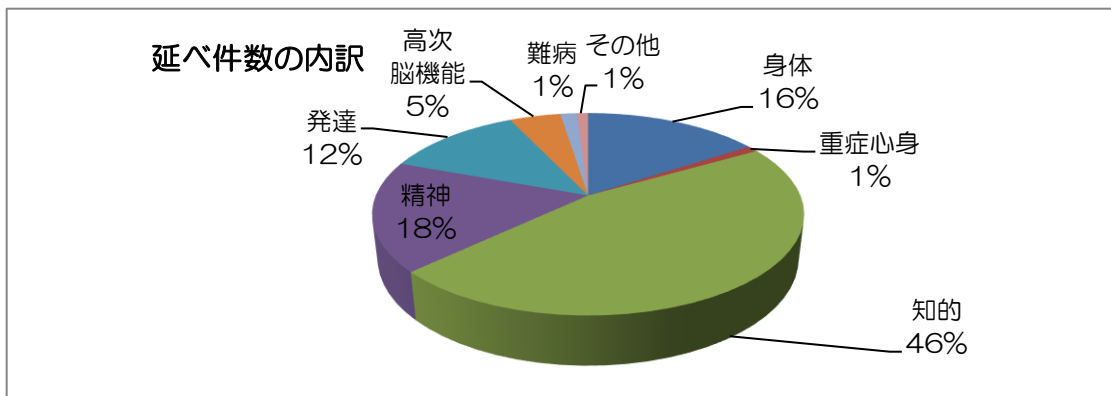
○居住区別内訳



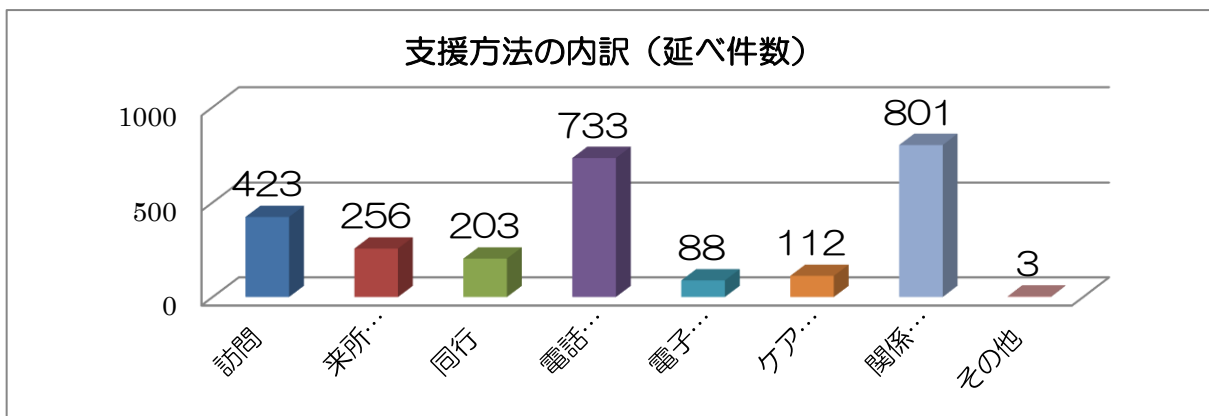
○大人と子どもの割合



○障がい種別内訳



○年間延べ支援件数 2619件



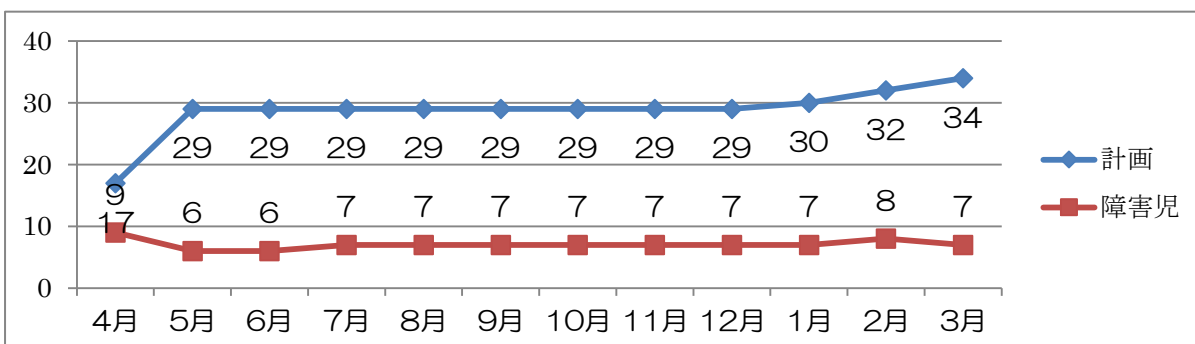
2.委託相談支援事業とサービス等利用計画の作成

今年度は専任スタッフ4名体制で委託相談と計画相談等を実施してきた。

近年の支援の状況は、委託相談業務の他に計画相談業務の増加や相談内容の複雑化・多様化により実務量が増大しており、個別の相談支援は圧迫されてきていると感じている。計画相談に関しても相談支援専門員の絶対的な数の不足が大きな課題である。

しかし、これまで大切にしてきた「本人主体の相談支援」や「身近な地域で気軽に相談できる場」の実現、自立支援協議会等の「地域での取り組み」に関する役割を今以上に発揮したいと考えている。

○計画相談利用者数



3.ピアサポーター

知的障がいの方3名、視覚障害の方1名とピアサポーターの雇用契約を結び、札幌市全体のピアサポーター交流会等にスタッフと一緒に参加した。また、委託相談支援事業に位置付く「ピアサポーター事業」自体を見直す意見交換会にスタッフが参加してきた。

次年度は、ぼぼだけでなく他の相談室のニーズも確認し、一人暮らしや就労等に関する個別の相談にもあたっていけるようにしていきたい。

4.地域資源との関係、地域での役割発揮

身近な地域にある下記のような機関とつながりを作り関係を深めてきた。このようまで、相談員個々が様々なことを学ぶと同時に相談支援事業等に寄与することができた。

(1) 中央区合同勉強会

相談支援に関わる情報共有、考え方の整理やすり合わせ計画相談の検証等を目的。区役所保健福祉課、委託相談事業所、指定相談支援事業所等で構成。

(2) 札幌市自立支援協議会

- ・中央区地域部会（事務局）
- ・相談支援部会（定例会参加、企画推進等プロジェクトチームへの参加）

(3) 外部講師の派遣等

- ・札幌市個別支援計画研修
- ・北海道相談支援従事者研修 など

(4) その他

- ・相談員同士の各種のネットワーク（事務局等） など

5.相談支援スキルの向上

日常業務の中でのスキルの向上等をめざし、次のような取り組みを行ってきた。

(1) 随時のミーティング（毎朝、及び随時必要に応じて）

個別相談の経過報告、事例の検討、スタッフの行動予定

(2) 定例ミーティング（原則毎週水曜日、午前中）

個別相談の経過報告、事例の検討

(3) 月末ミーティング（原則毎月最終金曜日、午前中）

会議、研修報告、スタッフ個々人の相談活動の振り返り

(4) スペシャル・ミーティング（年に2回）

個別相談の継続、待機、終了の判断やそれらの目途をつける

(5) その他

スタッフ個々人の「まとめる力」を養うために持ち回りにより会議録を作成する等

札幌市障がい者相談支援事業基幹相談支援センター運営業務

さっぽろ地域づくりネットワーク ワン・オール

※ (H27:00) とあるのは、昨年度の年間実績数

1.障がい者相談支援事業所の支援

(1) 個別相談支援業務

札幌市外からの転入等、他の委託相談支援事業所で行うことが難しい相談支援業務を行なっている。登録者数は 8 名 (H27: 11) で、支援回数は延べ 78 回 (H27: 63)。未登録者への支援回数は延べ 216 回 (H27: 161)。個別相談の件数と未登録者への支援割合が共に増加しており、基幹相談センター設置当初には想定していなかった状況が続いている。

(2) 相談支援事業の後方支援

個別ケースへの助言、事業所運営に関する助言、事例検討会の開催及び参画、事例検討に関する助言についての支援件数は 76 件 (H27: 91)。委託を受けていない指定相談支援事業所に対する支援件数は 71 件 (H27: 77)。前年度に比較し、特に指定の相談支援事業所からの、個別ケースに関する相談が増加している。

〈ワン・オール〉が主催する「『人材育成』と『スキルアップ』研修」は、3 回開催し 78 名が受講した。4 回目の開催も予定していたが、他の研修の開催予定等を考慮し、次年度に開催とする予定。

「札幌弁護士会との共催研修」では、発達障がい支援センターおがるも事務局として加わって研修作りをしている。2 回の開催で 48 名が受講。

(3) 「札幌市障がい者相談支援事業」の改善推進

「相談室ごとの要綱実現方法の差」をテーマに 4 圏域毎グループ討議が開催されており、平成 27 年度分の実施状況報告書について統計処理をした資料を、4 圏域毎グループ討議に持参して共有。

区毎意見交換会について、殆どの区で開催されている状況で、開催ができていなかった区に、他区の情報提供を行うなどの支援を行った。

道外の 3 つの市を視察。また、旭川市の委託について、旭川市から講師を招き、事業所内研修を実施。

2.計画相談支援の推進

「計画相談支援 How to 研修」は奇数月に開催し、6 回で計 49 名の参加があった。ここ 1 ～ 2 年で札幌市内に指定相談支援事業所が増え、障がい福祉サービス一つひとつについて、今年度は初心者にもわかるように研修を 2 部構成とした。

また、要望に応じオーダーメイドの研修を企画し、いくつかの団体からの要請があり、研修講師などとして、研修への協力を行った。

相談支援マニュアルは、〈ワン・オール〉も関与して作成された、札幌市主催の説明会資料の内容を反映した改訂を5月に実施済み。

3.地域相談支援の推進

地域移行については、ピアサポーターと共に個別支援を開始。今後も、地域の相談支援事業所と連携しながら、個別支援を行っていく予定である。また、精神科病院内スタッフ向けに本事業について講演を実施。ピアサポーターミーティングはこれまでに24回開催。

未登録で、刑務所等からの出所ケースについて、刑務所や出所後のサービス提供事業所との調整も行った。

4.障がい当事者による相談支援活動の支援

札幌市障がい者相談支援事業におけるピアサポーター配置事業所意見交換会を3回開催。6事業所の事業計画をもとに実施している内容、今後の課題などが話された。ピアサポーターの雇用条件（給与、有給休暇等）についても情報交換することができた。ピアサポーター交流会は毎月〈ワン・オール〉を会場に開かれ12回開催されている。ピアサポーターそれぞれが自身の苦労話を話す中で障がい種別を越えて互いの「苦労」等が共有されている。

5.札幌市自立支援協議会

（1）全体会・運営会議・まちの課題整理プロジェクト事務局業務

6月30日開催の全体会を境に、まちの課題整理プロジェクトチームの役割が運営会議に移され、あわせて、市域の協議会については、既存のものを含む6つのプロジェクトチームや、専門部会連絡会が設置された。

運営会議には、今年度各部会から運営会議（旧まちの課題整理プロジェクトチームを含む）への課題報告は19件。また、さっぽろ障がい者プラン見直しアクションについては、実態調査項目について意見交換を実施。12月には、地域生活支援拠点の整備に向けた意見交換の依頼があり、今後当面の間隔月のペースで実施予定。

（2）相談支援部会事務局業務

今年度から、〈ワン・オール〉の報告を定例会で実施している。「課題調べシート」については19件の提出があり、内12件については運営会議に報告、3件については、4月の定例会で検討予定。

年度途中から、地域支援員会議を相談支援部会のプロジェクトとして位置づけ直した。また、旧要綱改訂チームから提案のあった、4圏域毎のグループ討議も実施中。これらを含め、相談支援部会事務局参加は37回（H27：49）。

（3）地域部会

地域部会の状況を共通の項目で見える化した資料として、「部会の組織とチェックポイント」を作成し7月22日に、委託相談支援事業所と各区個別支援主査、協議会委員で共有

した。地域部会へは、地域部会連絡会への参加 2 回を含む 86 回参加（H27：67）。状況を見ながら、他区の地域部会を含む協議会の他の組織の情報提供などを行い、他区の地域部会の取り組みをモデルとした運営の工夫が検討される等している。引き続き、活性化のきっかけができてくる区への優先的な参加を行う。

6.地域支援体制の構築

(1)「誰もが住みやすいあんしんのまちコーディネート業務」の推進

今年度から新たに委託を受けた「誰もが住みやすいあんしんのまちコーディネート業務」事業では、定期的に市担当者も含めミーティングを開催し、災害時支援に関連する法体系の整理や、他都市の事例についての情報共有等を行った。また、災害関係の研修や被災した地域についての研修会等に参加。札幌市の要配慮者避難支援への取組から、災害に備えて町内会等が作成する個別避難計画や避難行動要支援者へ送付される同意書などについて、より身近でわかりやすく使用できるよう、様式の見直し等を行った。

今年度は 3 箇所の町内会、1 箇所の福祉のまちづくり推進センターから支援依頼があり、「障がいのある方への関わり」や「障がいのある方の避難時の留意点」等について研修会を開催した。地域毎の実状に沿った研修内容となるよう研修開催までに数度打ち合わせ等を行った。また、各区の地域支援員配置事業所へ連携を依頼し、各地域の取組に合わせた地域支援員との連携の仕方などについて今後も検討をしていく。

3/15(水)に「災害に備えた地域での支え合い研修会～障がいのある方などの避難支援を考えよう～」を開催し、町内会、行政担当者を中心とした参加者向けに、本業務で支援を行った町内会の取組事例の報告や、本業務の利用に向けた周知を行った。また、本業務の取組をまとめた事業報告書の作成、札幌市のホームページ内の本業務のホームページ開設にも携わった。

(2) 市内関係機関との連携

情報共有、連携を推進するために諸会議等へ積極的に参加。機関類型別の支援件数は、司法が 89 件（H27：87）、行政が 81 件（H27：80）、専門機関（公設・民間）が 65 件（H27：76）、障害福祉サービスが 34 件（H27：34）、医療機関が 29 件（H27：39）など。これら以外に市外が 141 件（H27：112）となった。

区新任職員研修や児童相談所新任職員研修のほか、札幌市社会福祉協議会や当事者団体などからの研修依頼に対応。

(3) 生活圏域での連携

石狩圏域等の生活圏域を考慮した情報交換、必要な支援の連携を促進していくため、夢民が主催する、「相談支援ネットワーク会議」等へ 4 回参加。また、夢民からの来所や、振興局と札幌市障がい福祉課も加わったの意見交換会に参加。北海道自立支援協議会では、地域づくりコーディネーター部会にオブザーバーとして参加。

7.情報提供、情報発信

機関紙について、3回発行し、西宮市と神戸市の視察報や誰もが住みやすいあんしんのまちコーディネーター業務、精神障がい者地域生活移行支援事業ピアサポーター活用業務の状況報告、運営委員会の開催報告等について掲載。

ホームページについて、12月より、新たに「委託相談情報共有」ページを親切した。活動状況の報告については、ブログも含め随時更新している。

今年度のアクセス件数は、「くワン・オール」かべ新聞」が29,234件（H27：28586）、1日平均約80件（H27：約78件）。「くワン・オール」ブログ」が3518件（H27：4681件）、1日平均約10件（H27：約13件）。

8.運営体制

（1）運営に関する基本的な考え方

来年度以降に向けて、相談支援事業の委託を受けている法人に、再委託での職員派遣の依頼を行い、来年度は、これまでと別の法人より新たに派遣いただける予定。また、相談支援部会の交換研修については、受け入れを行った。

（2）ミーティング、情報共有

原則週1回火曜日午前中に実施し、活動状況の振り返り、関係機関との連絡調整の報告、市外からの転入ケースの共有、活動方針の検討等を行うミーティングを、可能な限り市障がい福祉課もミーティングに参加し39回開催した。

（3）運営委員会

事業報告と事業計画や、事業の中立性と運営についてなどを議題に、2回開催した。

ワンマイルネット事業

1.ワンマイルネット事務局

ワンマイルネット事務局はNPO法人あむの会計、賛助会員管理の他、イベント情報の発信や問い合わせに対する連絡窓口としての役割を担っている。

また幌西第12分区町内会班長業務（回覧板の管理・町内会費集金等）や西屯田南8条商工会会員として、総会、行事への参加、情報交換等を行った。

●ワンマイル事務局活動記録

4月16日	幌西第12分区町内会 役員会
5月14日	幌西第12分区町内会 総会
1月8日	西屯田8条商工会 新年会
2月20日	幌西第12分区町内会 救急救命講習

2.まちづくり事業

(1) なんきゅう夏祭り

日時 7月31日(日) 11時~15時30分

会場 わんぱく公園、南9条通サポートセンター

〈あむ〉周辺にお住いの方々にも協力頂き、実行委員会を発足し企画・運営を行った。今年度のお祭りは10周年ということで、初めて2会場による開催をした。

パフォーマーによる中国コマやジャグリング、腹話術、町内会長とのじゃんけん大会などのイベント、屋台、縁日、バザーの出店の他、北海道文教大学、札幌ビューティーアート専門学校、就労継続B型事業所エールアライブ、近隣のスープカレー店奥芝商店の参加もあった。関係者だけではなく、大人から子どもまで地域住民が多く参加し、交流を深めた。

(2) 晩ごはん食べてけば？

毎月第2木曜日 17時から20時まで、参加費300円(小学生100円)で、誰でも参加自由の夕食会「晩ごはん食べてけば？」を開催した。

	大人	小学生	未就学	合計	メニュー
4月	34	8	2	44	リクエストに应运えて！中華メニュー！
5月	56	10	12	78	子どものためのお子様メニュー！
6月	44	5	2	51	〈しげぱん〉パンに合うメニュー
7月	49	13	21	83	今年もやります！流しそうめん
8月	27	0	1	28	夏野菜カレー
9月	36	5	7	48	韓国メニュー
10月	44	4	10	58	いもだの くりだの
11月	48	4	12	64	2種類の Pasta
12月	34	6	8	48	クリスマスメニュー
1月	41	8	13	62	餅つき
2月	46	7	6	59	29にく肉
3月	51	9	7	67	屋台メニュー
合計(のべ)	510	79	101	690	(月のべ平均：57.5人)

(3) まじっちゃんおう！

地域の町内会、医療・教育・福祉関係者など様々な人が集まって交流する「まじっちゃんおう！」を開催した。

日時 2月25日(土) 18時30分~20時30分

会場 南9条通サポートセンター2階他

参加者 60名

3.子育て支援事業

(1) ころころひろば

毎週水曜日午前 10 時から 11 時 30 分まで、〈に・こ・ば〉を会場として、集団での活動が苦手な子どもでも安心して参加できるよう、少人数規模の子育てサロンとして活動している。今年度は 1 歳前後のお子さんが多く参加し、母親通しのつながりができることで、情報交換の場となっていた。

月別参加者数(47 回開催)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
18	15	25	19	24	24	15	22	15	9	19	21	226

(2) リトミック教室

親子で参加し、音楽に合わせたリズム遊び、楽器遊びなどを行うリトミック教室を年 2 コース(1 コース 6 回)開催した。

前期コース 6～8 月 参加親子 8 組

後期コース 9～11 月 // 13 組

会場 あけぼのアート&コミュニティセンター 講師 高橋幹子さん

(3) アフリカンダンス

東京よりダンス講師 Mocoly さんを招き、5 月、12 月の 2 回、アフリカンドラムに合わせて、みんなでダンスを踊るイベントを行った。

第 1 回 日時 5 月 18 日 会場 札幌医学技術福祉歯科専門学校体育館

第 2 回 日時 12 月 3 日 会場 旭山公園地区センターホール

4.障がい者支援事業

主に知的な障がいのある当事者が集まり、交流する「お知り合い協会」の活動を支援した。世話人(当事者)の方々が主体となれるよう世話人会の運営を支えた他、交流会、イベントの開催、準備をサポートした。

今年度は海水浴や新年会を行った他、以前から交流のある留萌市で活動する障がいがある方たちの劇団の公演を見に行くなどの交流を深めた。また 3 月の晩ごはん食べてけば?では世話人が中心となって初めて企画し、調理を担当した。

5.夢の種を咲かす会

GAP 札幌ステラプレイス店に勤める松本氏よりいただいた 10,000 ドル(約 100 万円)の寄付を原資に、リンゴの木のオーナーになって、あむ利用者、スタッフ、GAP スタッフがみんなで収穫に行き、交流しようというイベント〈夢の種を咲かす会〉を開催した。

日時 10 月 1 日(土)

会場 仁木町 瀬尾観光農園

参加者 93 名

SAT（スタッフ研修担当）

1.研修について

基本的な知識の獲得は、各スタッフが自主的に行い、SAT では専門的な知識・技術の習得を図るため、以下のような研修を行った。

5月 ディナーミーティング

6月 アサーティブコミュニケーションについて

コミュニケーション・ナビゲーター 姉帯 美和子氏

8月 職員合宿 ～重症心身症についての講習 医療法人稲生会理事長・医師 土畠 智幸氏

9月 28歳以下と森の会

11月 実践交流会

2月 実践交流会

3月 摂食と嚥下の勉強会 楡の会言語聴覚士 大宮きよえ氏

- ・スタッフの学びたいことを土台に、研修スケジュールを組むことができた。
- ・経験年数で学びたいことが違うこともあり、年齢制限を設けた研修会を行った。
- ・実践交流会では、昨年度の反省を踏まえて2回に分けて全事業所の発表を行った。回数を分けることにより1つの発表に、より深くやり取りをすることができ、良かった。終了後のアンケートには、「1日に4～5つの発表だと時間に余裕がない」との意見が多く、「2年間ほどのスパンで全事業所の発表をしてはどうか」との意見もあった。

2.研修情報の共有について

- ・スタッフにメールで研修案内を周知した。今後もメールでの研修案内を行っていきたい。

3.ディナーミーティングについて

- ・研修内容を考えるにあたり、ディナーミーティングでスタッフに何を学びたいかを出し合ってもらった。それに沿って、研修スケジュールを組み立てることができた。

広報 ami.com

全体として

平成27年度から継続課題である、広報誌の作業工程の見直しと作業の効率化、ホームページのリニューアルなどに取り組んだ。

1. わんまいる・みゅ〜じあむ

平成28年度も2回の発行を行った。スタッフの役割を明確化したことで効率が上がり、デザイン担当者が会議に参加する機会が増えたことで、全員で完成イメージの共有がしやすくなり、結果、作業速度を上げることが出来た。「くあむ」の広報誌としての役割を考え「読みやすさ、伝わりやすさ」については今後も意見交換をしながら作成していく。

2. ホームページ、ブログ

現在ある全体のホームページのリニューアルに関しては継続して取り組んでいく。平成28年度に関しては、求人情報を載せるための新しい取り組みを行った。またデザイン性も含めて、イベントチラシや案内板、広報誌など他の広報媒体と連動させていく事を考えていく。

3. 掲示板

季節の飾りつけやイベントの際の告知を中心に、掲示の工夫を行った。「ご自由にお持ちください」BOXを設置し、広報誌やチラシを自由に落ち帰れるようにし、「伝える」を意識した掲示板になるようにした。来年度も引き続き継続していく。

実習受け入れ

社会福祉士を目指す大学生の実習を受け入れた他、介護福祉士を目指す専門学校生、作業療法士を目指す大学生の実習を受け入れた。

サブチーフを中心として実習受け入れ委員会を組織し、実習スケジュール、事業所間の連絡調整、実習生への指導、助言、養成校との連絡調整等を行った。

法人、事業についての理解を深めてもらうためのオリエンテーション、実習生が分からなかったこと、困ったことなどの疑問点、悩みを解消するためのフィードバック、スーパーバイズ等を通して、実習指導者自身が自分たちの仕事を振り返り、指導力、伝える力を身につける機会になっている。

近年、社会福祉士実習において障がい福祉分野での実習を希望する学生が減ってきている傾向にあり、これまで年間3~4校の受け入れを行ってきたが、平成28年度は養成校からの依頼が1校のみとなっている。この傾向は今後も続くことが予想されるため、新たな養成校の受け入れを検討するとともに、障がい福祉分野での仕事の魅力、面白さを学生たちに伝えていくための取り組みが必要である。

1. 実習受け入れ委員会

- ・ 責任者：社会福祉士実習指導者（法人事務局：姉帯）
- ・ 副責任者：各部署のサブチーフもしくはそれに代わる者
- ・ 社会福祉士実習指導者：6名（平成28年3月現在）

2.実習受入実績

- 社会福祉士実習 23日間 北星学園大学 社会福祉学部 福祉計画学科3年：1名
- 介護福祉士実習 5日間 せいとく介護こども福祉専門学校 介護福祉士科1年：3名
- 地域作業療法実習 5日間 北海道文教大学 人間科学部 作業療法学科：2名
- 地域作業療法演習 2日間 札幌医科大学 保健医療学部 作業療法学科3年：2名

計8名 35日間